

第5学年3組 音楽科学習指導案

平成29年10月11日（水）第5校時
場所 音楽室
児童数 31名
指導者 内藤 美和

1 題材名 〈音のスケッチ〉自分たちのケチャの音楽をつくろう

2 題材について

(1) 児童の実態

(2) 題材設定の意図

本題材は、学習指導要領との関連A 表現(3)音楽づくり ア、イに関連している。「いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。」「イ 音を音楽にする過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。」をねらいとしている。その過程においては、児童がつくる過程を楽しみながら、試行錯誤し、考えたり、判断したりしながら創意工夫する活動を楽しむようにすることが大切である。また、音楽の仕組みを生かし、つくる音楽の形やそれに至る方法などを考えるなど、見通しをもってまとまりのある音楽をつくることが大切となる。

インターロッキングとは、「かみ合わさる」という意味であり、同じリズムや旋律が繰り返されながら、複数のパート同士が互いにかみ合わさっているような音の重なり方をする音楽である。この題材では、インターロッキングの音楽づくりに取り組むことで、簡単なリズムをいくつか組み合わせたり重ねたりすることで、全く違った聞こえ方になるという楽しさを味わわせたい。

特に今回は、バリ島のケチャの音楽に重点を置き、音楽づくりをする。〔共通事項〕は、アリズム、強弱、速度、反復を取り上げ、まとまりのある音楽になるように工夫ができるようにしたい。

3 題材の目標

- ・ケチャの音楽について関心をもち、仕組みを生かして音楽をつくったり、鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。「音楽の関心・意欲・態度」
- ・音楽の仕組み(反復や速度・強弱)をいろいろ試して、自分の考えや願いをもって簡単な音楽をつくる工夫をする。「音楽表現の創意工夫」
- ・反復や速度、強弱を生かして、まとまりのあるケチャの音楽をつくる。「音楽表現の技能」
- ・ケチャの仕組みを聴き取り、面白さを感じ取ったり、曲の構成を理解したりして聴く。「鑑賞の能力」

4 教材(◎は本時で扱う音階)

◎自分たちのケチャの音楽をつくろう

○ケチャ(インドネシア バリ島)

近年ケチャはバリ島を代表とする芸能として広く世に知られているが、その歴史はそれほど古いものではない。1930年、バリ島に在住していたドイツ人画家ワルター・シュピーズが、サンギャンという呪術性の濃い儀式の中に「チャッチャッチャツ」と唱える男声合唱に着目し、これを観光用の芸能に仕立て上げることを提唱したのが始まりである。その後、「ラーマーヤナ物語」と結び付いて、現在ではバリ島の村々で上演されているような形に整えられていった。

(出典 教育出版 小学音楽 音楽のおくりもの6研究編 教師用指導書より)

5 本題材で主に扱う〔共通事項〕と学習活動のかかわり

〔共通事項〕ア	リズム・反復	強弱	速度
〔共通事項〕イ			
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> グループでケチャのリズムを考え、(基礎となるA)をつくる。 ケチャの(基礎となるA)のリズムを何度か繰り返し、音楽をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ケチャのリズムの強弱を考え、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ケチャの音楽の速度の違いによる工夫を考え、表現する。

6 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①ケチャの音楽について関心を持ち、鑑賞する活動に主体的に取り組もうとしている。 ②ケチャの音楽について関心を持ち、仕組みを生かして音楽をつくる活動に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 音楽の仕組み(反復や速度・強弱)を生かし、音を音楽にしていくことをいろいろ試して、自分の考えや願いをもって簡単な音楽をつくる工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 反復や速度、強弱を生かして、まとまりのあるケチャの音楽をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ケチャの仕組みを聴き取り、面白さを感じ取ったり、曲の構成を理解したりして聴いている。

7 題材における指導と評価の計画(4時間扱い)

時	○学習内容・主な学習活動	・指導上の留意点◇評価規準	共通事項
《第1次》ケチャの音楽に親しむ。			
1	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な発想をもって即興的に表現すること。 ・「ケチャ」を聴き、インターロッキングの音楽の響きに親しむ。 ・教師の考えたケチャの基本の形を練習し、声で合わせ、インターロッキングの音楽の仕組みを理解する。 ・教師の考えたケチャを何度か練習し、学級全体で合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケチャの仕組みがわかるように説明する。 ・ケチャを聴き、鑑賞することで、インターロッキングの音楽を理解できるようにする。 ◇ケチャの音楽について関心を持ち、鑑賞する活動に主体的に取り組んでいる。〈関①〉【活動の内容の観察・発言の内容】 ◇ケチャの仕組みを聴き取り、面白さを感じ取ったり、曲の構成を理解したりして聴いている。〈鑑①〉【活動の内容の観察・発言の内容】 	<ul style="list-style-type: none"> ア リズム ア 強弱 ア 速度 ア 反復
《第2次》ケチャの音楽をつくって、演奏する。			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。 ・6人のグループをつくり、基礎となるケチャのリズムをつくる。 ・基礎となるリズムを使い、(4分の2・2小節)始め方、強弱、速さ、終わり方の等を使って工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートの重なり方を工夫するようにする。 ・始め方、反復、強弱、速度、終わり方を考え、工夫するように助言する。 ・ワークシートにどのようなパートの重なり方にするか表せるようにする。 ◇ケチャの音楽について関心を持ち、仕組 	<ul style="list-style-type: none"> ア リズム ア 強弱 ア 速度 ア 反復

3 本時	<p>○音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケチャをもう一度鑑賞する。 ・基礎となるリズム A を使って、始め方、強弱、速さ、終わり方の等の工夫をする。 ・前時につくった音楽の続きをさらに工夫する。 ・始め方、終わり方、反復、強弱、速度(速さ)の工夫をする。 ・中間発表をする。 ・さらに試行錯誤し、音楽を仕上げる。 	<p>みを生かして音楽をつくる活動に主体的に取り組もうとしている。〈関②〉</p> <p>【活動の様子の観察・発言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時につくったケチャの続きを考える。 ・始め方、反復、強弱、速度、終わり方を考え、工夫するように助言する。 ・他のグループの演奏のよい所を聴くようにする。 <p>◇音楽の仕組み（反復や速度・強弱）を生かし、音を音楽にしていくことをいろいろ試して自分の考えや願いをもって簡単な音楽をつくる工夫をしている。〈創①〉</p> <p>【活動の様子の観察・発言の内容・ワークシート】</p>	ア ア ア ア	リズム 強弱 速度 反復
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのケチャの発表会をする。 ・よかったこと、気づいたことを発表し合う。 ・まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな始め方の工夫をしたか、強弱や速さの工夫をどのようにしたか、終わり方の工夫をどのようにしたか、説明させてから発表させる。 ・始め方・強弱の違いは感じ取れたか、速さの違いは感じ取れたか、終わり方の工夫はどのようにされていたか聴くポイントをおさえて聞かせ、これにのっとった感想を言わせるようにする。 ・他のグループの演奏を聴いて、よい所を見つけるようにする。 <p>◇反復や速度、強弱を生かして、まとまりのあるケチャの音楽をつくっている。</p> <p>〈技①〉【演奏の聴取】</p>	ア ア ア ア	リズム 強弱 速度 反復

8 人権教育場上の視点

- お互いの個性を認め合い、発想や考えの多様性を尊重する態度を養う。
- 【人間関係づくり】態度＝多様性

9 本時の学習活動（3／4時）

- (1) 目標 自分たちの思いや意図をもって自分たちのケチャを工夫する。【音楽表現の創意工夫】
- (2) 展開

過程 時間	○学習内容 ・学習活動	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 内は学習に即した評価規準 ○指導上の留意点 評価方法【】 ◇人権上の視点
導入 (5分)	<p>○本時の学習で使う音楽の仕組みについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケチャの音楽を鑑賞し、[共通事項]（強弱、速度、反復等）を確認する。 	<p>○前時までの学習を想起し、強弱、速度、反復等の共通事項の確認ができるようにする。</p>

<p>展開 (35分) 10分</p>	<p>○本時のめあてを確認する。</p>	
	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">音楽のしくみを生かして、自分たちのケチャをつくろう</p> <p>○グループで前時の続きを考え、(始め方、終わり方、速度、強弱)に着目し工夫をする。 ・考えたケチャの音楽を(基礎となるA)を使ってワークシートに表すようにし、一つの音楽をつくる。</p>	<p>○本時のめあてを理解し、グループでケチャの音楽づくりに取り組めるようにする。 ○以下のような工夫を確認するようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・始め方 ・終わり方 ・反復(繰り返し) ・強弱 ・速度 </div> <p>○6人グループになり、強弱、速度、反復等の工夫をするようにする。 ○グループの中で1人は拍を刻むパートをつくるようにする。 ○グループ毎にどの部分でどんな工夫をするのか話し合い、試してみるようにする。 ○ワークシートに表すようにする。 ○考えたケチャを何度も試し、よりよい音楽になるように意見を出し合うようにする。 ○始め方、終わり方、速度、強弱の工夫をどれからでもよいので考え、できたら教師に聞いてもらい、OKをもらった班は、「グループ進度表」に赤丸をつけ、次の工夫へと進むようにする。この時に気を付けさせたいことが「早く終わればよい」ということではないことをおさえ、意識させるようにする。</p>
<p>10分</p>	<p>○工夫が見られる班が発表する。 ・工夫した所を説明してから、発表する。</p>	<p>○まとまりのある音楽をつくるために、うまくいっている班を2班ほど取り上げ、参考にできるようにする。 ○書画カメラでワークシートを映し出すことでどんな演奏をするのかを理解できるようにする。 ○どんな始め方の工夫をしたか、強弱や速さの工夫をどのようにしたか、終わり方の工夫をどのようにしたか、説明させてから発表させる。</p>
<p>5分</p>	<p>○表現の工夫(始め方、終わり方、速度、強弱)に着目させ、どのように工夫されていたか考える。 ・どのように工夫されていたか理由をもって説明する。</p>	<p>○他のグループの発表を聴いて、表現の工夫(始め方、終わり方、速度、強弱)に着目させ、気づいたことを発表させる。 ◇お互いの考えを受け止め、発想や考えの多様性を尊重する態度を養う。[人間関係づくり]態度=多様性の尊重</p>
<p>10分</p>	<p>○グループで始め方、終わり方、速度、強弱の工夫をし、ケチャの音楽を仕上げる。 ・グループでケチャの音楽を仕上げ、練習をする。</p>	<p>○一度中間発表した後、再度グループ活動をし、ケチャの音楽を仕上げるようにする。</p>



自分たちのケチャの音楽をつくろう

5- () 班

① パターンA

	1	2	3	4	5	6	7	8
()a								
()b								
()c								
()d								
()e								
()f								

② パターンAを使ったケチャづくり

始め方

終わり方

③ ふりかえり

		自己評価
①	速度、強弱、反復を工夫して音楽づくりができた。	◎ ○ △
②	グループで協力して音楽づくりに取り組めた。	◎ ○ △
感想		